

平成25年1月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.23Km²)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	4,831	8,267	4,144	4,123	3	10
2 千 石	3,353	6,633	3,343	3,290	△ 12	△ 24
3 内 山	4,781	7,029	3,792	3,237	5	7
4 大 和	3,190	6,661	3,339	3,322	△ 8	△ 8
5 上 野	7,268	15,567	7,571	7,996	△ 16	△ 22
6 高 見	6,293	12,428	5,980	6,448	27	62
7 春 岡	6,153	10,097	5,399	4,698	△ 2	△ 8
8 田 代	11,160	21,498	10,338	11,160	3	△ 3
9 東 山	9,566	18,651	9,125	9,526	△ 1	△ 14
10 見 付	4,321	8,326	4,166	4,160	△ 28	△ 9
11 星ヶ丘	3,381	6,700	2,996	3,704	△ 4	△ 1
12 自由ヶ丘	3,222	7,035	3,167	3,868	1	6
13 富士見台	6,392	15,838	7,306	8,532	25	53
14 宮 根	3,685	8,482	4,028	4,454	0	△ 17
15 千代田橋	3,591	8,755	4,097	4,658	△ 7	△ 22
千 種 区 計	81,187	161,967	78,791	83,176	△ 14	10
H24.1.1	81,338	161,277	78,446	82,831	137	△ 680
対 前 年 比	△ 151	690	345	345	△ 151	690
名 古 屋 市	1,025,001	2,268,072	1,116,934	1,151,138	△ 313	△ 628
愛 知 県 (H24.12.1)	2,969,056	7,429,620	3,711,088	3,718,532	1,693	851

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	124	118	6	890	886	4

【参考】

国勢調査千種区人口				これまでの最大人口	
昭和50年	168,861	平成7年	148,847	173,598 (昭和50年2月1日)	
昭和55年	166,837	平成12年	148,537		
昭和60年	163,762	平成17年	153,132	これまでの最少人口	
平成2年	156,478	平成22年	160,015	146,727 (平成11年4月1日)	

注1) 世帯数と人口は、平成22年国勢調査結果を基礎として、毎月の住民基本台帳人口と外国人登録人口の異動数を加減しています。

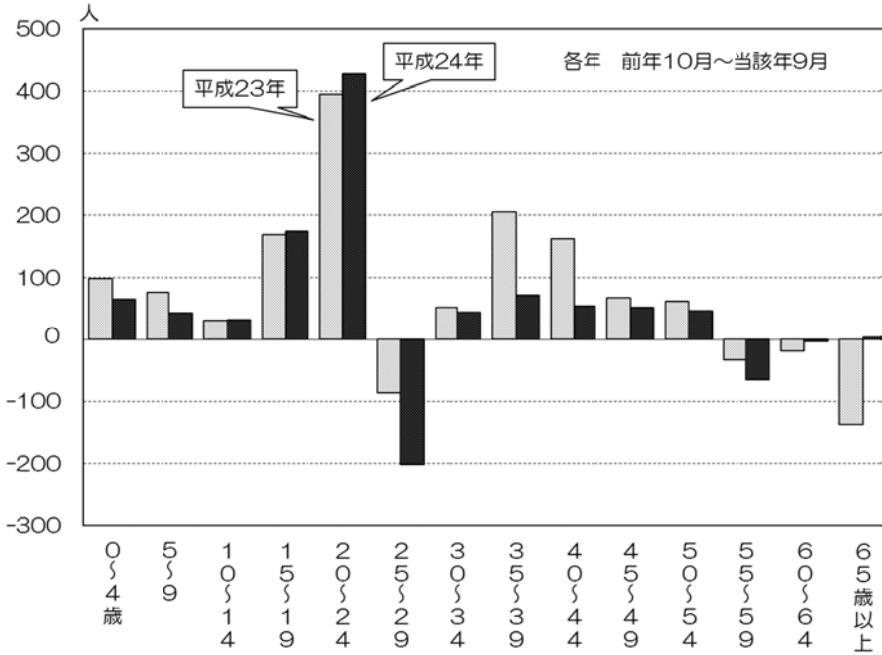
注2) 社会動態および対前月増減には、平成24年7月の法改正に伴う外国人人口の取扱変更による数値変動が含まれており、昨年との連続性はありません。

統計なごやweb版 <http://www.city.nagoya.jp/shisei/category/67-5-0-0-0-0-0-0-0-0-0.html>

千種区の5歳階級別社会増減数の推移

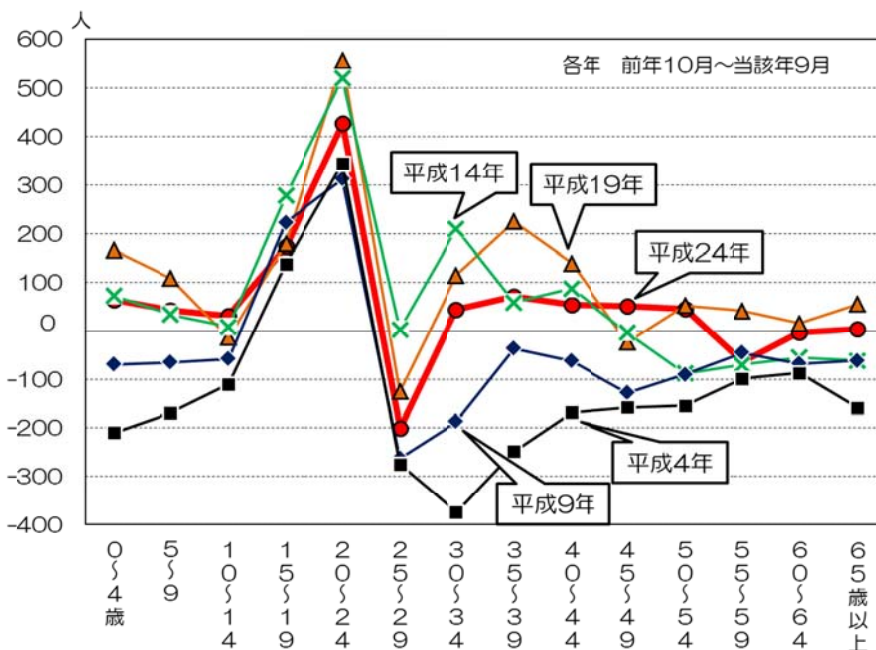
平成25年1月1日現在の千種区の世帯数は14世帯減の81,187世帯となっており、人口は10人増の161,967人となっています。今回は平成24年愛知県人口動向調査（名古屋市分）に基づいて、本区の年齢5歳階級別社会増減数（転入数－転出数）をみていきます。

図1: 年齢5歳階級別社会増減数（平成23年と平成24年の比較）



平成23年と平成24年の年齢5歳階級別社会増減数を見てみると、25～29歳および55歳以上で社会減（本区からの転出超過）が見られる一方で、他の年代では社会増（本区への転入超過）となっており、特に15～24歳での大幅な社会増傾向が見られます（図1）。平成24年の社会増減数を平成23年と比較すると、全体的に社会増の縮小傾向が見られ、25～29歳では社会減が拡大している一方で、15～24歳での社会増は拡大しています。

図2: 年齢5歳階級別社会増減数の推移



平成4年から平成24年までの5年ごとの年齢5歳階級別社会増減数の推移を見てみると、各年代とも全体的に社会増の傾向が見られます。平成4年では各年代とも全体的に社会減でしたが、平成24年ではほとんどの年代で社会増となっています。15～24歳に本区に転入し、25～29歳で転出するという傾向に大きな変化は見られませんでした。